



2026年3月27日

各位

会社名 株式会社 ispace
代表者名 代表取締役 CEO 袴田 武史
(コード番号：9348 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 CFO 兼 事業統括 エグゼクティブ 野崎 順平
(TEL. 03-6277-6451)

月周回の自社衛星を活用した新たなサービスの検討開始に関するお知らせ

当社は、2026年3月27日付の取締役会決議において、通信・測位のサービスを提供する「ルナ・コネクトサービス」の立ち上げ検討を開始することについて下記の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. サービス検討開始の趣旨

近年、米国が主導するアルテミス計画をはじめ、月面インフラ構築に向けた取り組みが国際的に本格化しております。これに伴い、月面活動を支える通信や測位、広範囲な月面観測、宇宙状況把握（Space Situation Awareness）等、月周回衛星等のアセットを活用したサービスの潜在的な需要が急速に高まっています。こうした環境下において、当社は、過去2度の月面着陸ミッションを通じて実証した「月周回軌道への輸送・投入および同軌道上での運用能力」を活用し、月周回衛星等の自社アセットを今後積極的に月周回軌道へ展開する方針です。当社は2030年までに少なくとも5機の自社月周回衛星を投入することを計画しており、当該月周回衛星を活用した月面および月周回で活動する顧客に対しての通信・測位サービス「ルナ・コネクトサービス」の立ち上げを検討開始することを決定いたしました。

なお、ルナ・コネクトサービス事業を構築する上では、大容量の通信・データ等を月から安定的に受信するための、地球側の地上局の整備が重要な鍵となりますが、地上局の運用および利用について、ispaceは日本国内における主要な地上局提供事業者であるKDDI株式会社（東京都千代田区、代表取締役社長 CEO：松田浩路、以下KDDI）と、共同検討を進めるべく基本合意書を締結しています。本合意に基づき、KDDIは地上局の機能や、月面における通信サービスの在り方等についてispaceに必要な技術的・事業的情報を提供し、両社は共に将来計画の具体化を進める予定です。KDDIは2024年11月に、「宇宙戦略基金」の技術開発テーマである「月-地球間通信システム開発・実証（FS）」の委託先に選定されており、同システムにおける地上局及び地上局ネットワークの基本設計と、月面モバイル通信環境構築の実現可能性評価を実施しており、今後、ルナ・コネクトサービスを共同で提供する上で両社の具体的な役割等について協議を進めて行く予定です。

2. 新たなサービスの概要

(1) サービス名称	ルナ・コネクトサービス
(2) 提供サービス	・通信サービス 月面および月周回軌道の広範囲において、月面、月-月周回、および月-地球の安定かつ高速の通信機能を提供するサービス ・測位サービス 月面で活動する様々なペイロードに対して一定精度の位置情報（緯度・経度・時間等）を提供するサービス
(3) サービスの対象顧客	今後確定次第発表いたします
(4) サービス開始時期	最速で 2027 年度中

3. 市場規模（当社試算）とサービス開始時期

月周回衛星等のアセットを活用したルナ・コネクトサービスおよびデータサービスの市場規模は、2040 年代に少なくとも年間 4,500 億円規模へと成長することを当社試算により見込んでおります。ispace は現在、自社月周回衛星の月周回軌道への投入を検討しておりますが、その第一弾として、米 Argo Space Corp との間で輸送予約に関する合意書を締結の上、同社が提供する宇宙輸送サービスを利用して、最速 2027 年の当社初の月周回衛星の投入(ミッション 2.5)と、最速で 2027 年度中の通信サービスの開始を目指しております。サービス提供先となる顧客については、今後確定の上契約次第、開示いたします。なお、当社は 2030 年までに少なくとも 5 基の自社月周回衛星を投入する計画であり、将来的には複数基による、より高度で重層的なサービスの展開を順次検討してまいります。

シスルナ経済圏の構築という ispace のビジョンに基づき、当社は、月面及び月周回への輸送サービスおよび月面データサービスによる既存の事業に加え、月周回アセットを活用した新たなルナ・コネクトサービス事業の立ち上げと具体化に向けた取り組みを加速します。今後、具体的なサービスの内容等について決定した場合には速やかに開示いたします。

4. 業績への影響について

本件による 2026 年 3 月期通期連結業績予想への影響はありません。

以上